

## 02年夏期日本語・日本事情プログラム開講 33人の研修生が学ぶ 川崎の小学校訪問し交流



国際交流協定校などの外国人学生が日本語と日本文化を学ぶ「2002年夏期日本語・日本事情プログラム」がスタートし、11カ国・地域33人の研修生が学んでいる。

6月17日(月)、生田キャンパスで行われた開講式では、大林守国際交流センター長が「日本語が上手になり、日本の文化を発見することを期待します」と研修生たちを激励。歓迎会では、多数の教職員、キャンパスアシスタントの学生たちが歓迎、三曲研究会の演奏も披露された。

タイから参加したパチャラポーン・ナサワンさんは「日本語を約2年間勉強しましたが、このコースでもっと上達したい。ホームステイが楽しみです」と目を輝かせた。

同28日(金)には、川崎市立犬蔵小学校を訪問、参加研修生は、各国の言葉や遊びを紹介するなど、同校小学生と和やかに交流した。

同プログラムは8月3日(土)の帰国まで7週間行われる。

〔7月15日/ニュース専修14面〕